

細目目次

序章

1. はじめに	1
2. 先行研究の概観と本研究の考察範囲	2
2.1 ベネファクティブの意味的特徴に関する研究	3
2.2 ベネファクティブの構文的特徴に関する研究	4
2.3 ベネファクティブの談話的特徴に関する研究	5
2.4 対照言語学的アプローチによるベネファクティブの研究	5
2.5 その他の観点からの研究	6
3. 本研究の立場	6

第1部 ベネファクティブの構文的特徴

第1章 ベネファクティブの視点と方向性

1. はじめに	11
2. 先行研究におけるいくつかの関連する概念の検討と本稿の立場	12
2.1 仕手視点表現と受け手視点表現	12
2.2 方向性	14
2.3 久野 (1978)の視点制約	17
2.4 まとめ	19
3. 直接構造と間接構造	20
4. 個々の動詞の持つ方向性とテクル・テイクとテクレル	23
4.1 語彙的方向性内在動詞	23
4.2 談話依存型方向性内在動詞	24
4.2.1 主体移動動詞	26
4.2.1.1 主体位置変化動詞	26
4.2.1.2 主体の位置変化を表さない移動動詞類	28
4.2.2 対象移動動詞	30
4.2.2.1 (具体物の移動を表す)三項動詞	30
4.2.2.2 具体物の移動を含意しない対象移動動詞	32
4.2.3 まとめ	33
4.3 相互動詞構文	35
4.4 その他の動作の対象を取る動詞	35
4.5 テクレルを取らない動詞	36
5. おわりに	37

第2章 ベネファクティブ構文に含まれる事態の特徴

1. はじめに	39
2. 与益者の事態に対する自己制御性とベネファクティブ	40
2.1 先行研究	40

2.2	自己制御性の低さと文内位置	41
2.2.1	テヤル受益文	42
2.2.2	テクレル受益文	43
2.2.3	テモラウ受益文	44
2.2.4	まとめ	45
2.3	与益者の特徴：有情性を中心に	47
2.3.1	テヤル受益文	47
2.3.2	テクレル受益文	48
2.3.3	テモラウ受益文	49
2.4	与益者の格形式	50
2.5	まとめ	53
3.	受益者が想定されにくいテヤル受益文	55
3.1	無情物受益者が擬人化された用法	56
3.2	事態改善表示用法	57
3.3	まとめ	58
4.	おわりに	58

第3章 ベネファクティブ構文に含まれる名詞句の格表示

1.	はじめに	59
2.	テヤル/テクレル受益文における受益者の格表示	60
2.1	一般的なテヤル/テクレル受益文の受益者の格表示	60
2.2	作成動詞を含むテヤル/テクレル受益文の受益者の格表示	62
2.3	持ち主のテヤル/テクレル受益文の受益者の格表示	65
2.4	まとめ	66
3.	テモラウ受益文における与益者の格表示	67
3.1	はじめに	67
3.2	先行研究とその問題点	68
3.3	動詞の類別に見たカラ格の許容度	69
3.4	動詞以外の要因によるカラ格の許容度の違い	74
3.4.1	与益者の単数性・複数性	74
3.4.2	働きかけ性	74
3.4.3	直接構造と間接構造	75
3.4.4	まとめ	76
3.5	受身文の動作主の格表示との比較	77
4.	まとめ：テヤル/テクレル受益文の二格とテモラウ受益文のカラ格の対称性	78

第4章 ベネファクティブのヴォイス的特徴

1.	先行研究概観	80
2.	ヴォイスの体系におけるベネファクティブの位置	80

目次

3.	テモラウ文の働きかけ性	84
3.1	はじめに	84
3.2	先行研究	84
3.3	働きかけ性とは何か	85
3.4	テモラウ受益文の働きかけ性を決定する要因	87
3.4.1	モダリティなどの形式的要因	87
3.4.2	複文制約による要因	88
3.4.2.1	継起的なテ節複文の後件	88
3.4.2.2	感情の原因となるテ節およびト節前件のテモラウ	89
3.4.3	動作主の性質による要因	89
3.4.4	語用論的要因	90
3.4.5	まとめ	90
3.5	テモラウ受益文の働きかけ性はいずれが基本か	90
3.6	関連する諸構文との関係	92
3.6.1	使役文	92
3.6.2	受身文	93
3.6.3	テクレル受益文	93
3.6.4	テモラエル文	94
3.6.5	まとめ	94
3.7	おわりに	94
4.	非恩恵型テモラウ	96
4.1	はじめに	96
4.2	事実起因感情表出表現に見られる非恩恵型テモラウ	97
4.2.1	用例の観察	97
4.2.2	現場依存性	98
4.2.3	「条件」の意味	99
4.2.4	事態の動作主	100
4.2.5	他のヴォイス形式との比較	101
4.2.6	「非恩恵型テモラウ + テ八困ル」の意味・機能	101
4.3	働きかけ表現の一部としての非恩恵型テモラウ	102
4.4	第三者が動作主となる非恩恵型テモラウ	103
4.5	まとめ	104

第5章 述語の層におけるベネファクティブの位置

1.	はじめに	107
2.	ヴォイス形式との複合形	108
2.1	ベネファクティブ形式と使役形式との複合形	109
2.1.1	テヤラセル vs. サセテヤル	109
2.1.2	テクレサセル vs. サセテクレル	110
2.1.3	テモラワセル vs. サセテモラウ	111

2.1.4	まとめ	113
2.2	ベネファクティブ形式と受身形式との複合形	113
3.	アスペクトとの複合形	114
3.1	はじめに	114
3.2	ベネファクティブの意味による組み合わせの制限	115
3.3	テイルの表す意味による組み合わせの制限	116
3.3.1	反復	116
3.3.2	動作の継続	117
3.3.3	結果残存	117
3.3.4	単純状態	118
3.3.5	まとめ	118
3.4	受身的テモラウと使役的テモラウ	119
3.5	直接構造・間接構造の区別と組み合わせの制限	121
3.5.1	テクレル	121
3.5.2	テヤル	122
3.5.3	テモラウ	124
3.5.4	まとめ	124
3.6	おわりに	125
4.	否定との複合形	125
5.	ベネファクティブ相互間の複合形	126

第6章 非恩恵型ベネファクティブ

～意思を表すテヤル/テクレルと皮肉のテクレル

1.	はじめに	130
2.	非恩恵型テヤル	131
2.1	従来の考察	131
2.2	意志を表すモダリティと非恩恵型テヤル	132
2.3	受影者の存在による分類	137
2.3.1	受影者が存在する場合	137
2.3.2	受影者の存在が希薄な場合と受影者が不在の場合	139
2.3.3	受影者の表出	140
2.3.4	まとめ	142
2.4	聞き手存在	142
2.4.1	「ト思ウ」テストと「ット」テスト	143
2.4.2	丁寧さ	144
2.4.3	非恩恵型テヤルの疑問化の意味	145
2.4.4	その他の小辞	148
2.5	モダリティの真正性	149
2.5.1	テンスの分化	150
2.5.2	話し手以外の意志の表出	151

目次

2.5.3	否定	151
2.5.4	まとめ	151
2.6	その他のモダリティ形式が後続する場合	152
2.6.1	希望	153
2.6.2	働きかけ	153
2.6.3	述べ立て	155
2.6.4	まとめ	155
2.7	まとめ：「非恩恵」の意味と恩恵型とのつながり	156
3.	非恩恵型テクレル	157
3.1	従来の考察と問題点	157
3.2	遠心的非恩恵型テクレル	157
3.2.1	受影者の存在による制限	158
3.2.2	モダリティとの関連	159
3.2.3	まとめ	161
3.3	求心的非恩恵型テクレル	162
3.3.1	非恩恵明示型テクレル文	162
3.3.2	非恩恵暗示型テクレル文	164
3.3.3	受影表示型テクレル文	166
3.3.4	まとめ	167
4.	おわりに	167
第7章 モダリティ形式化したベネファクティブ～依頼表現を中心に		
1.	はじめに	169
2.	依頼とは何か：依頼の定義と形式	170
3.	各系ごとの特徴の記述	174
3.1	A類(命令系およびその変形)依頼表現	174
3.1.1	受益性	175
3.1.2	参与者表示に関する特徴	179
3.1.3	否定の位置：ナイデクレ vs. テクレルナ	180
3.2	B類(テクレル系)依頼表現	182
3.3	C類(テモラウ系)依頼表現	184
3.4	D類(許可の問い掛け系)依頼表現	185
3.5	E類(条件+評価系)依頼表現	187
3.6	F類(願望系)依頼表現：あわせて願望表現について	188
3.7	G類(意志系)依頼表現	189
4.	依頼表現の汎言語的観察と可能	190
4.1	諸言語における依頼表現	190
4.2	テクレル系依頼表現においてなぜ可能が入らないのか	192
4.3	テモラウ系依頼表現における可能の意味	194
5.	おわりに：依頼とはなにか	195

第2部 ベネファクティブの参与者追跡機能

第8章 連文における参与者追跡とベネファクティブ

1. はじめに：参与者追跡機能とは	199
2. 他の参与者追跡方略の中でのベネファクティブの位置づけ	200
3. 考察	206
3.1 テクレル受益文	206
3.2 テヤル受益文	208
3.3 テモラウ受益文	210
4. まとめ	212

第9章 複文における参与者追跡とベネファクティブ

1. はじめに	215
2. ベネファクティブを含まない複文の主語の異同	216
3. 複文前件にベネファクティブを含む場合	220
3.1 テ節以外の従属節を含む複文	220
3.2 テ節を含む複文	223
3.3 後件が感情表出表現の場合	224
4. 複文後件にベネファクティブを含む場合	226
4.1 テ節以外の従属節を含む複文	226
4.2 テ節を含む複文	227
5. 視点の層と主題の層	228

第10章 連体修飾節におけるベネファクティブと主名詞

1. はじめに	231
2. 主名詞の連体修飾節内部の文法関係同定に関わるさまざまな方略	231
2.1 連体修飾節内の述語の語彙論的・意味的特性による同定	232
2.2 連体修飾節内に他の項が顕在している場合	233
2.3 複合名詞化ともいえる現象	233
2.4 主名詞の主節における文法関係との関係	234
2.5 敬語による主名詞の連体修飾節内の文法関係の同定	234
2.6 まとめ	235
3. ベネファクティブによる連体修飾節主名詞の節内における文法関係の同定	235
3.1 テクレルによる主名詞の文法関係同定	236
3.2 テモラウによる主名詞の文法関係同定	236
3.3 テヤルによる主名詞の文法関係同定	237
3.4 ベネファクティブとヴォイスなど他の形式との関係	237
4. おわりに	238

第3部 ベネファクティブの類型論的研究

第11章 授受動詞およびベネファクティブの類型論的研究

1. はじめに	241
2. 諸言語における授受動詞およびベネファクティブに関する先行研究	242
3. 物の授受を表す動詞	243
3.1 物の授受を表す形式が二項対立をなす言語	243
3.2 物の授受を表す形式が基本的に対立をなさない言語	245
3.3 まとめ	247
4. 事態の授受を表す表現形式	248
4.1 述部以外の方略による受益者表示を伴う事態の授受を表す表現	249
4.2 述部の形態による受益者表示を伴う事態の授受を表す表現	253
5. おわりに	258

おわりに	261
------	-----

参考文献	263
------	-----

用例出典	269
------	-----